三重県埋蔵文化財調査報告２１５

国分北遺跡発掘調査報告

―― 三重県鈴鹿市国分町所在 ――

2000. 12

三重県埋蔵文化財センター

序

鈴鹿市は、古代より伊勢国の中心地として栄えた地域です。鈴鹿川の北岸には伊勢国府、伊勢国分寺、国分尼寺など重要な施設が築かれました。近年の発掘調査によりこうした施設の姿が少しずつ明らかになってきています。

今回報告いたします国分北遺跡は、伊勢国分寺・国分尼寺の北に位置する遺跡です。貴重な文化遺産である遺跡を保護していく事は現代に生きる私たちの務めですが、一方で生活をより良くするための開発も必要です。残念ながら、（主）四日市鈴鹿環状線地方特定道路整備事業により遺跡の一部の現状変更が行われる事になり、協議の結果、事前に発掘調査を行い、記録保存を図ることになりました。

本書が地域の歴史研究の一助となるとともに、文化財保護の啓発のお役に立てれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に際しましてご協力を賜りました国分町の皆様をはじめ地元の方々、及び三重県県土整備部道路整備課、北勢県民局鈴鹿建設部、㈶三重県農業開発公社、鈴鹿市教育委員会、鈴鹿市考古博物館などの関係各位に厚く感謝を申し上げます。

平成12年12月

三重県埋蔵文化財センター
所長　藤　澤　英　三

例　　言

1　本書は、三重県鈴鹿市国分町に所在する国分北遺跡の発掘調査報告書である。

2　本調査は、三重県教育委員会が三重県県土整備部より執行委任を受けて、平成11年度（主）四日市鈴鹿環状線地方特定道路整備事業に伴って実施したものである。

3　調査は下記の体制で行った。

・調査主体　　三重県教育委員会

・調査担当　　三重県埋蔵文化財センター

調査第一課　　技　　師　　角正　淳子

技術補助員　　豊田　祥三

4　調査にあたっては、三重県県土整備部道路整備課・北勢県民局鈴鹿建設部・鈴鹿市教育委員会・鈴鹿市考古博物館および地元の方々の協力を得た。

5　本書の作成は、上記担当者のほか調査第一課および資料普及グループが行った。遺構・遺物の写真撮影は角正・豊田が行い、執筆及び全体の編集は角正が行った。

6　本書で示す方位は、国土調査法第Ⅵ座標系を基準とし、座標北を用いた。

7　本文で示す遺構表示略記号は、下記の通りである。

ＳＢ：掘立柱建物　　ＳＤ：溝　　ＳＺ：不明遺構

8　本書で報告した記録及び出土遺物は全て三重県埋蔵文化財センターで保管している。

9　スキャニングによるデーター取り込みのため若干のひずみが生じています。
各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

目　　次

Ⅰ　前　言 …… 1
Ⅱ　位置と環境 …… 2
Ⅲ　調査の成果 …… 4
Ⅳ　結語 …… 11

附　水巻遺跡工事立会結果報告 …… 12

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 3
第２図　調査区位置図 …… 4
第３図　調査区平面図 …… 5
第４図　ピット列平面図及び土層断面図 …… 7
第５図　調査区東壁・北壁土層断面図 …… 9
第６図　ＳＢ14平面図 …… 10
第７図　出土遺物実測図 …… 11
第８図　水巻遺跡位置図 …… 12
第９図　調査区位置図 …… 12
第10図　３Ｇ平面図及び西壁土層断面図 …… 13
第11図　出土遺物実測図 …… 13

表　目　次

第１表　出土遺物観察表 …… 10
第２表　水巻遺跡出土遺物観察表 …… 12

写真図版目次

図版１　国分北遺跡／調査区全景 …… 14
図版２　ＳＢ14／ピット列１・２ …… 15
図版３　国分北遺跡出土遺物／水巻遺跡出土遺物 …… 16

Ⅰ　前　　言

1　調査の契機

国分北遺跡は鈴鹿市国分町に所在する周知の遺跡である。今回、主要地方道四日市鈴鹿環状線地方特定道路整備事業の事業予定地に遺跡が含まれる事が分かった。これを受けて、平成８年度に範囲確認調査を一部実施したところ1,300㎡について遺跡の広がりを確認した。そこで、その取り扱いについて保護に努めるよう、三重県県土整備部道路整備課と三重県教育委員会生涯学習課、三重県埋蔵文化財センターで協議を重ねたが、現状保存が困難であるとしてやむなく発掘調査を実施し、記録保存を図ることになった。ただし調査対象地のうち、300㎡については種々の事情から次年度以降に調査することとし、平成11年度の調査対象面積は1,000㎡とした。

2　調査の体制

発掘調査は平成11年10月12日より開始した。調査区の約半分は宅地となっていたため、盛土の除去及び住宅廃材の撤去に約一週間を要した。その後、25日より重機による表土掘削、11月４日より作業員による遺構掘削を開始した。なお、土工部門を㈶三重県農業開発公社に委託した。発掘調査には地元の方をはじめ、たくさんの方々に参加していただいた。調査が短期間で終了できたのもひとえに作業に従事していただいた方の努力のおかげである。ここにご芳名を記して感謝する。（五十音順、敬称略）

伊藤和代、伊藤玉子、打田麗子、勝野春男、
河北修、川北純吉、桐生秀逸、桐生まさ子、
桑原うた子、坂倉まゆみ、瀬戸勝子、田中貞夫、
田中重治、辻宏、永戸昭義、永戸伊津子、
永戸しず子、永戸園美、永戸つや子、永戸尚子、
永戸久子、永戸ヒナコ、永戸正子、永戸光代、
永戸宗武、生川五十男、萩森俊夫、堀之内一哉、
牧村正巳、松村幸雄、水谷由紀子、八鳥喜代子、
山中しず子

＜調査日誌（抄）＞

11年10月12日　宅地部分盛土除去及び廃材撤去
10月25日　重機による表土掘削開始。
11月４日　作業員による遺構掘削開始。
11月15日　雨のため調査区水没。
11月19日　調査区全景写真撮影。
11月24日～26日　調査区平面図・土層断面図作成。
12月６・７日　調査区測量。
12年１月12日　引き渡し。

3　文化財保護法等にかかる諸通知

文化財保護法（以下、「法」）等にかかる諸通知は、以下により行っている。

- 法第57条の３第１項（文化庁長官あて）
  平成11年９月20日付道整第287号
- 法第98条の２第１項（文化庁長官あて）
  平成11年10月15日付教生第1011号
- 遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（鈴鹿警察署長あて）
  平成12年２月７日付教生第４－55号

4　調査の方法

地区設定については、調査区を４ｍ四方の枡目に区切って、地区を設定した。南北方向に数字を、東西方向にアルファベットを付け、枡目の北西隅をその小地区の符号とした。なお、この地区設定は国土座標軸とは無関係である。

また、調査区平面図及び土層断面図は１／20で作成した。

Ⅱ　位置と環境

国分北遺跡(1)は、三重県鈴鹿市国分町に所在する。鈴鹿市は三重県の中央部よりやや北寄りに位置し、西は鈴鹿山脈、東は伊勢湾を臨む。市のほぼ中央部を東西に横切る形で鈴鹿川が流れている。鈴鹿川は鈴鹿山系に源を発し、安楽川などの支流と合流しながら、伊勢湾へと注ぎこんでいる。鈴鹿川の左岸一帯は扇状地が多く、下流の右岸では広大な沖積平野が展開している。当遺跡は、この鈴鹿川下流左岸の中位段丘上に位置している。

この鈴鹿川左岸の台地には、古くから人類の営みが行われていたようである。旧石器時代の遺跡としては茶山遺跡、西ノ岡A遺跡(5)などでナイフ型石器が採集されている。[①] 縄文時代になると境谷遺跡(9)、添遺跡(29)などが知られる。弥生時代では、一反通遺跡(34)、扇広遺跡(4)、中尾山遺跡(10)などが位置し、開発に伴う発掘調査によって、弥生時代中～後期の竪穴住居や方形周溝墓などが発見されている。[②]

古墳時代にはいると、強大な権力を背景に古墳が築かれるようになる。これらの古墳は地形的・分布状況などからいくつかの地域グループに分けられ、検討が行われている。[③] 当遺跡周辺は特に古墳が密集する地域である。まず初現的な古墳として全長85mの寺田山1号墳(8)が築かれる。後期には寺田山古墳群(8)、沖ノ坂古墳群(11)、山辺古墳群(19)、中山古墳群(28)、石薬師東古墳群(27)などの10m前後からなる古墳群が密集し、それらの盟主墳と考えられる丸山1号墳、乗鞍古墳といった40mを超える前方後円墳が存在する。石薬師東古墳群は、近年の発掘調査で5世紀後半～6世紀にかけて形成された方墳が密集していることが明らかになった。[④]

奈良時代には、伊勢国府、伊勢国分寺、国分尼寺が築かれる。伊勢国府・伊勢国分寺はどちらも鈴鹿市教育委員会によって継続的に発掘調査が行われ、その所在地が確定している。[⑤] 国府については、広瀬町に所在する長者屋敷遺跡(57)が、奈良時代後半頃の政庁跡であると判明した。当初の国府推定地である国府町へはその後、平安時代以降に移転した可能性も考えられている。伊勢国分寺跡(22)は、地名に残る通り国分町に所在し、東西178m、南北184mの伽藍地が確定されている。国分尼寺跡は国分寺跡の東（北院地区)(13)に位置し、これらの寺院に先行する白鳳寺院が国分寺の南東（南院地区）(14)に存在したと考えられている。国分寺跡の南に位置する狐塚遺跡(21)では、規則的に配置された掘立柱建物が発見され、河曲郡衙の正倉群と推定されている。[⑥] 平成6年に三重県埋蔵文化財センターによって調査された国分東遺跡(12)では、奈良時代～平安時代にかけての掘立柱建物が計画的に建てられている事が分かった。[⑦] また、古代の交通路である「東海道」は鈴鹿市木田町から国分町を通り四日市市采女町へと通るルートが推定されており、[⑧] 当遺跡周辺が古代において重要な地であった事がうかがえる。

中世にはいると高岡山中世墓や高岡城跡などが位置する。高岡城は『勢州軍記』に織田信長軍との抗争の記録が残るが、[⑨] 発掘調査は行われておらず現況での踏査にとどまっている。発掘調査が行われた遺跡は少なく、当時期の様相は不明な点が多い。

［註］

①岡田登「北勢地方の旧石器時代遺跡」『四日市市史研究』第3号、1990

②『三重県埋蔵文化財センター年報1』
三重県埋蔵文化財センター、1990
『同2』、三重県埋蔵文化財センター、1991

③和田年弥「古墳文化の地域的構造とその特質－伊勢国鈴鹿地方の場合－」『古代学研究』72　古代學研究會、1974ほか

④服部芳人・船越重伸ほか『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡発掘調査報告』、三重県埋蔵文化財センター、2000

⑤『伊勢国分寺・国府跡』、鈴鹿市教育委員会、1994
『同2』、鈴鹿市教育委員会、1995
『同3』、鈴鹿市教育委員会、1996
『伊勢国府跡』、鈴鹿市教育委員会、1999など

⑥藤原秀樹「伊勢国分寺跡　第10次」『伊勢国分寺・国府跡3』、鈴鹿市教育委員会、1996

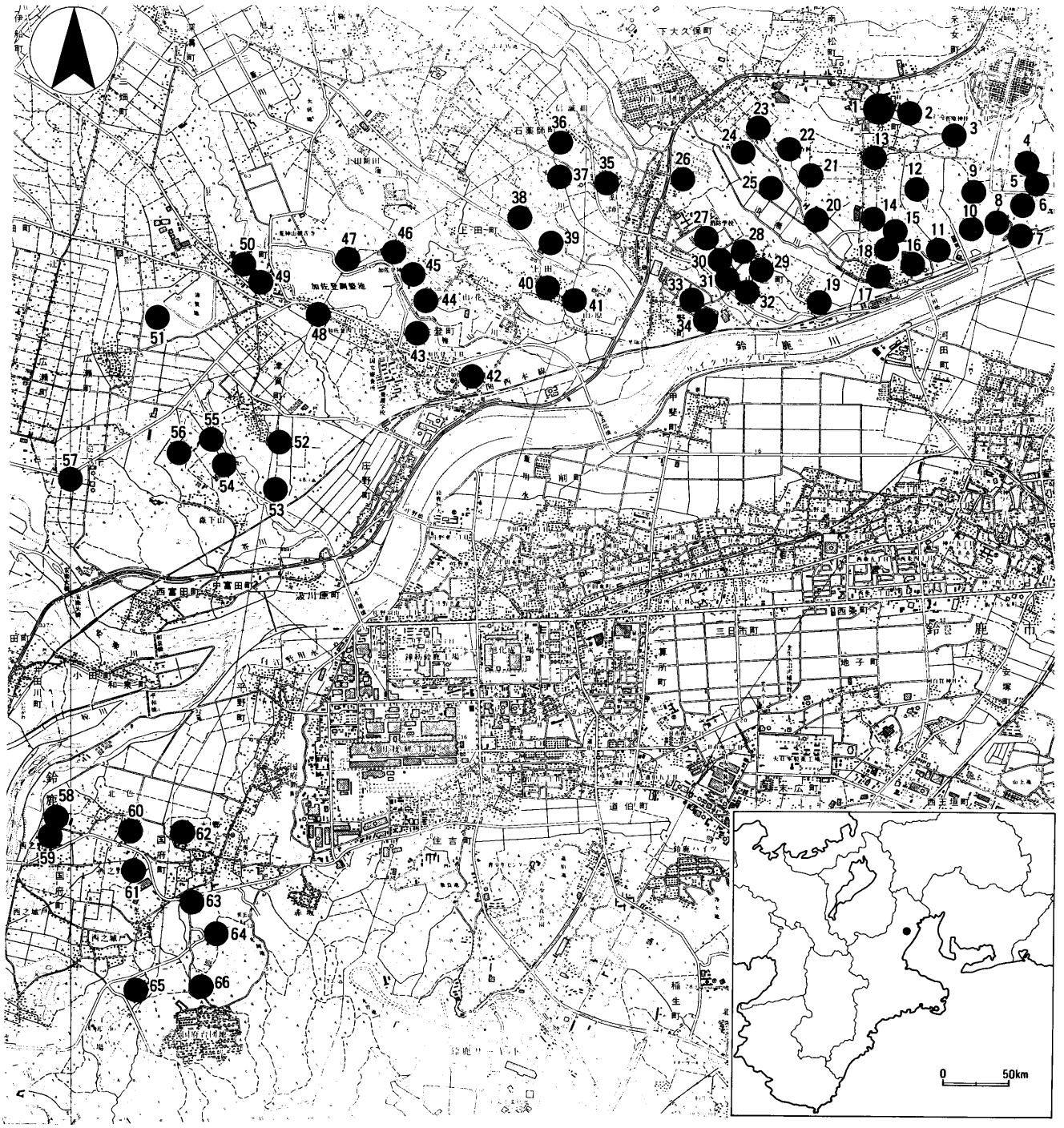
⑦『三重県埋蔵文化財センター年報6』
三重県埋蔵文化財センター、1994

⑧藤岡謙二郎編『古代日本の交通路・』大明堂、1978

⑨『三重の中世城館』三重研教育委員会、1977

［参考文献］

森川常厚『盤城山遺跡発掘調査報告』、三重県埋蔵文化財センター、1994
新田剛『南山遺跡・南山6号墳』、鈴鹿市教育委員会・鈴鹿市遺跡調査会、1991
『鈴鹿市遺跡地図』鈴鹿市教育委員会、1987
『鈴鹿市史』、鈴鹿市教育委員会、1980



1国分北遺跡　2天神遺跡　3富士山古墳群　4扇広遺跡　5西ノ岡Ａ遺跡
6西ノ岡Ｂ遺跡　7寺田山遺跡　8寺田山古墳群・寺山遺跡　9境谷遺跡　10中尾山遺跡・中尾山古墳群
11沖ノ坂古墳群　12国分東遺跡　13国分尼寺遺跡　14大鹿廃寺跡　15大鹿山古墳群
16盤城山遺跡　17里遺跡　18木田城跡　19山辺古墳群　20間瀬口遺跡
21狐塚遺跡　22伊勢国分寺跡　23添山遺跡　24南山遺跡　25蛸田遺跡
26狐台遺跡　27石薬師東古墳群　28中山古墳群　29添遺跡　30丸山古墳群
31口山古墳群　32南山古墳群　33若宮古墳群　34一反通遺跡　35宮ノ西遺跡
36神成塚遺跡　37新田遺跡　38奥ノ谷遺跡　39狐塚古墳群　40西浦遺跡
41山の原遺跡　42加佐登遺跡　43川原井遺跡　44川原井瓦窯跡　45椎山古墳群・椎山中世墓
46白鳥塚古墳群　47北野遺跡　48神垣遺跡　49高塚古墳群　50上高塚古墳群
51津賀池遺跡　52津賀平遺跡　53居敷遺跡　54津賀古墳群　55北蟻越遺跡
56茶臼塚古墳群　57長者屋敷遺跡　58保子里遺跡　59保子里古墳群　60国府Ｂ遺跡
61国府Ａ遺跡　62国府城跡　63三宅神社遺跡　64天王山西遺跡　65愛宕山古墳群
66府南寺遺跡

第１図　遺跡位置図（Ｓ＝１：50,000　国土地理院「鈴鹿」　Ｓ＝１：25,000より）

Ⅲ　調査の成果

1　層位

基本的な層序は、第１層表土、第２層明褐色粘土（地山）である。遺構検出面の標高は約43.7ｍで、調査区の北へいくにつれてやや低くなっている。調査前は南半分が宅地であったため、造成され0.5ｍ近く盛土がなされていた。

2　遺構

検出できた遺構は少ない。主な遺構として掘立柱建物１棟とピット列が挙げられるのみである。

ＳＢ14　調査区の南西部で検出した。桁行３間×梁行２間の掘立柱建物である。南北棟の建物で、桁行の柱間は約2.1ｍ、梁行の柱間は約2.4ｍである。柱穴から、遺物がほとんど出土せず詳細な時期決定はできない。

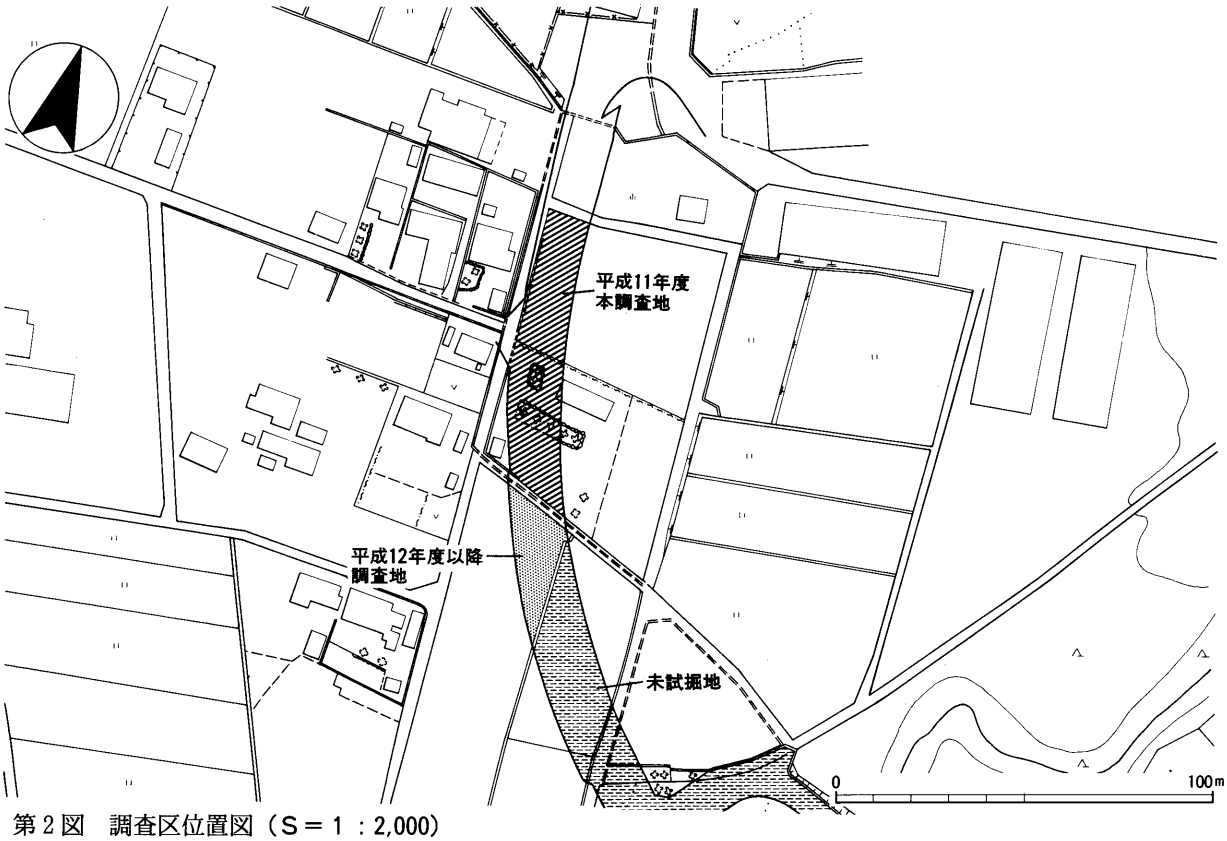
ピット列　調査区の中央を南北方向に続くピットの列１・２である。１は約0.6ｍ間隔で、途中２ヶ所途切れる部分があるが、約60ｍにわたっている。ピットの大きさは概ね長径約0.6ｍ、短径0.2ｍほどで楕円形を呈するが、北側ほど方形で大きくなり、深くなっている。さらに北端では溝（ＳＤ12）に変わっている。平行するようにもう一列（２）検出したが、こちらは調査区中央部付近で途絶えている。遺物は瓦をはじめ、灰釉陶器、須恵器などが出土した。

ＳＤ12　ピット列の北端で検出した溝である。幅約1.1ｍ、深さは約0.5ｍをはかる。埋土は、粘質で底部では小礫が混じっている部分もあった。溝内からは灰釉陶器、瓦が出土した。

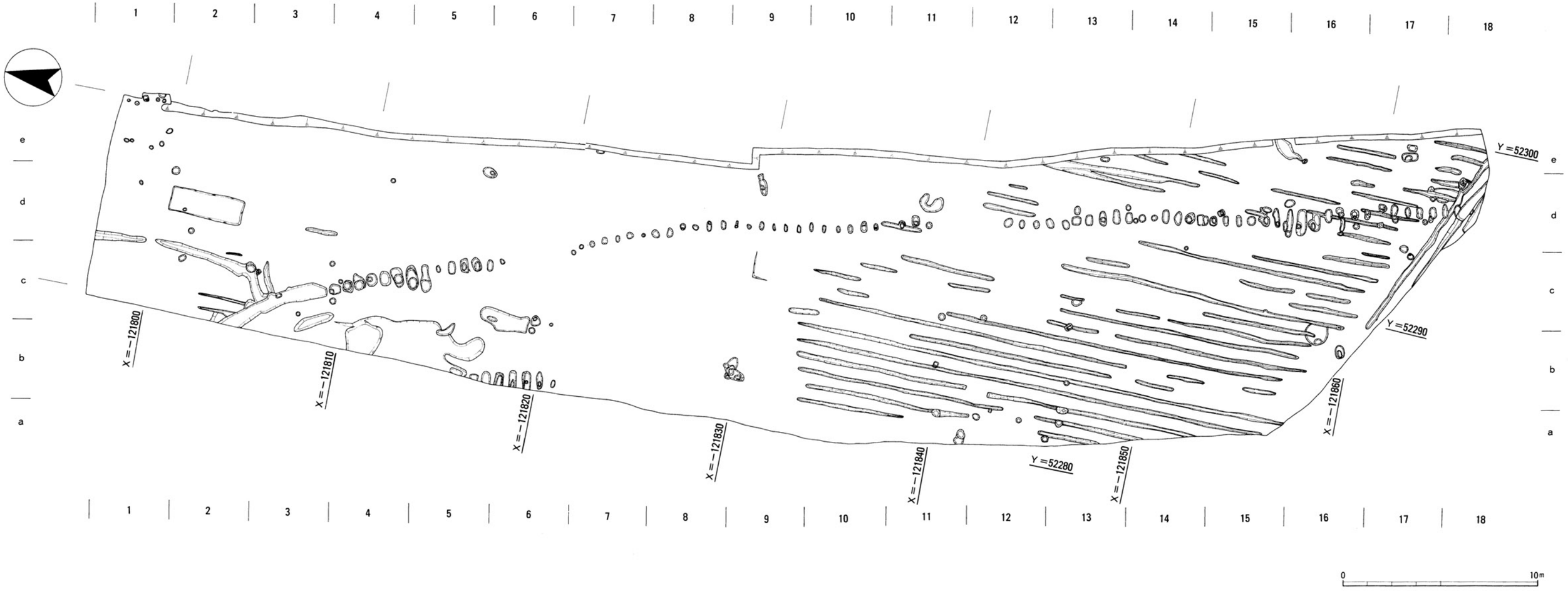
ＳＺ９・10　ピット列１・２の間で検出した。調査区北西に向かって深くなる落込みである。埋土からは土師器・灰釉陶器・瓦の他、拳大の礫が出土した。

3　遺物

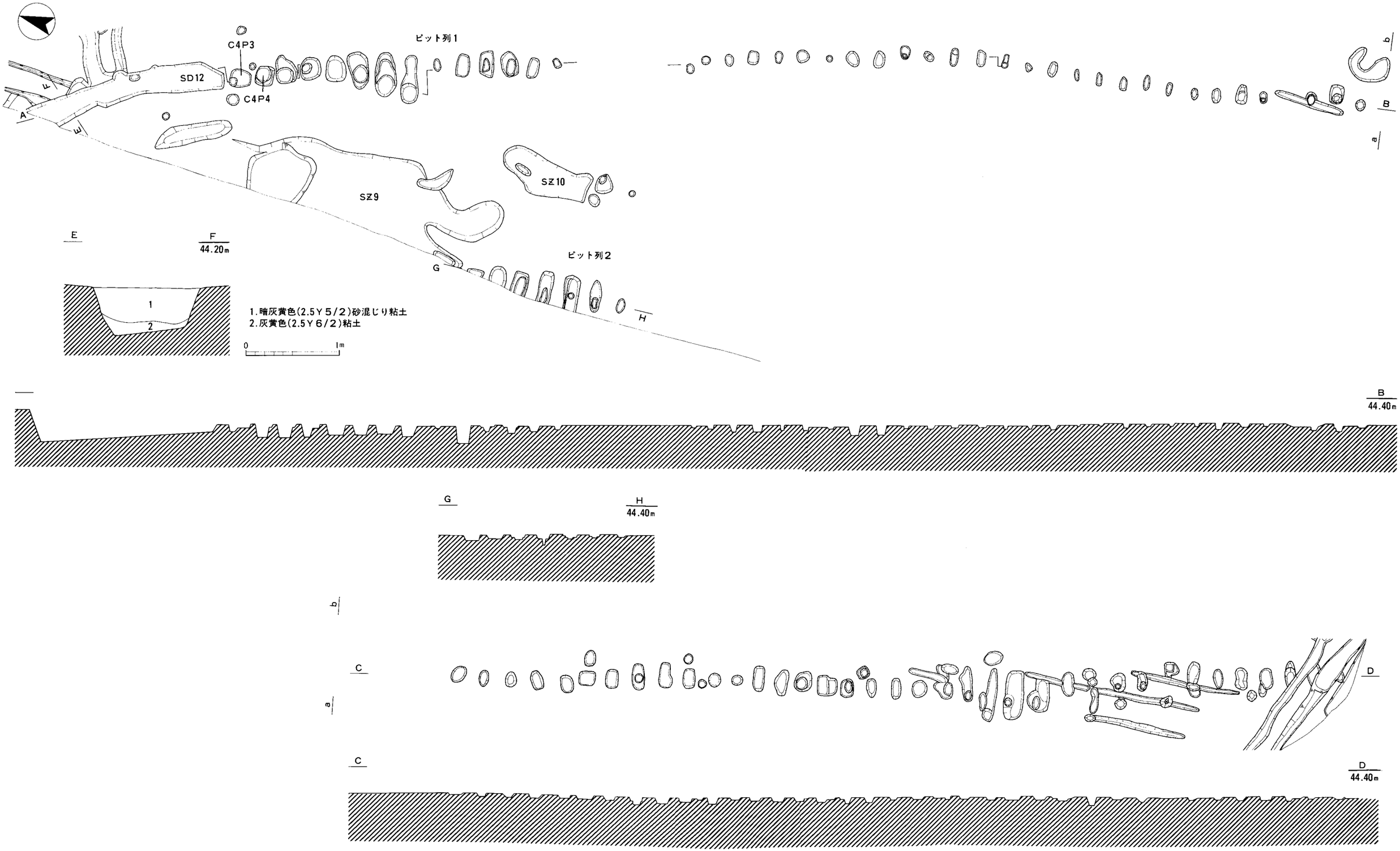
遺構及び包含層からは土師器・灰釉陶器・瓦が出土した。瓦は遺物のなかでは最も出土量が多いが、図示出来るものはほとんど無い。丸瓦・平瓦ともあるが軒瓦は図示した１点のみである。以下図示した



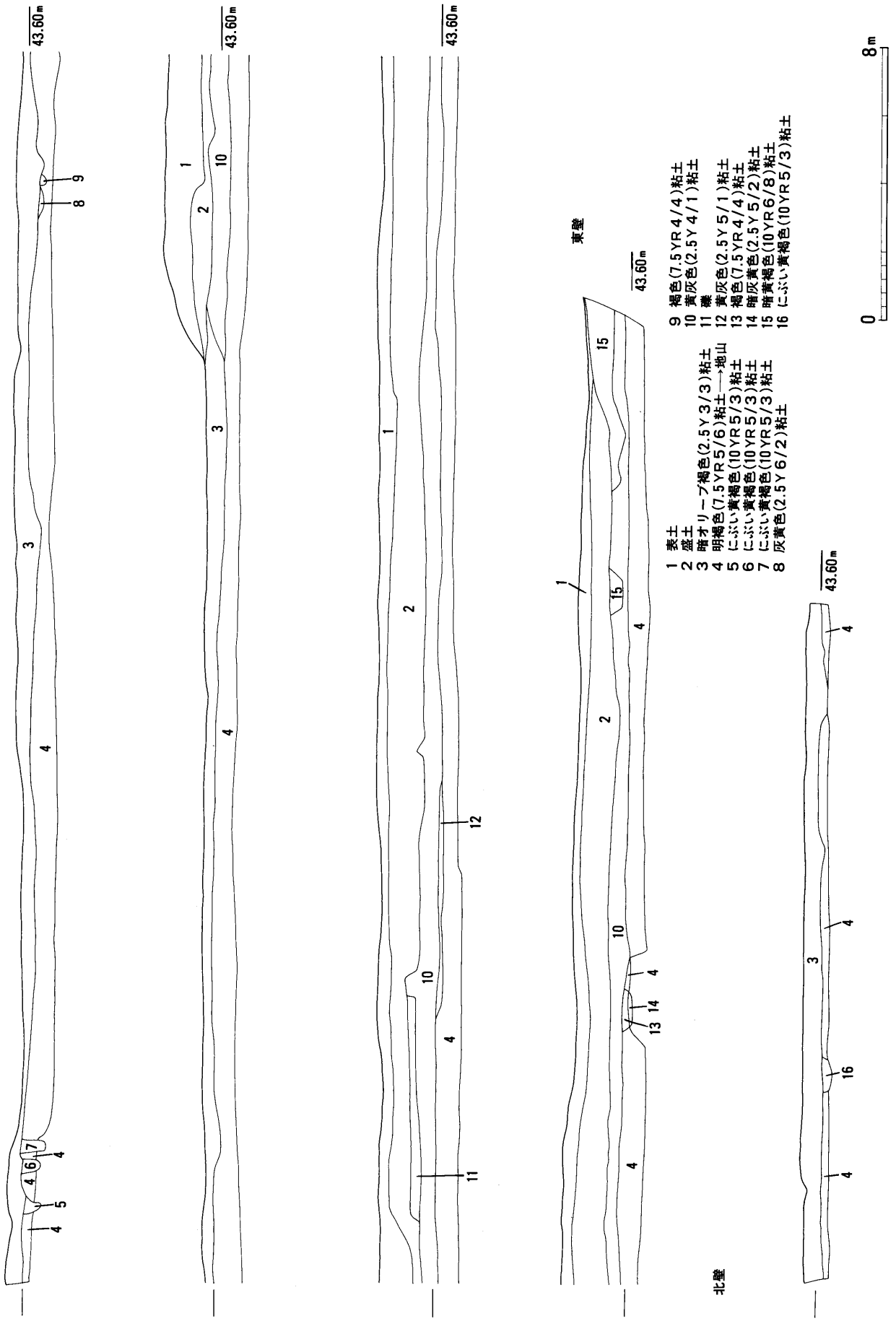
第２図　調査区位置図（Ｓ＝１：2,000）



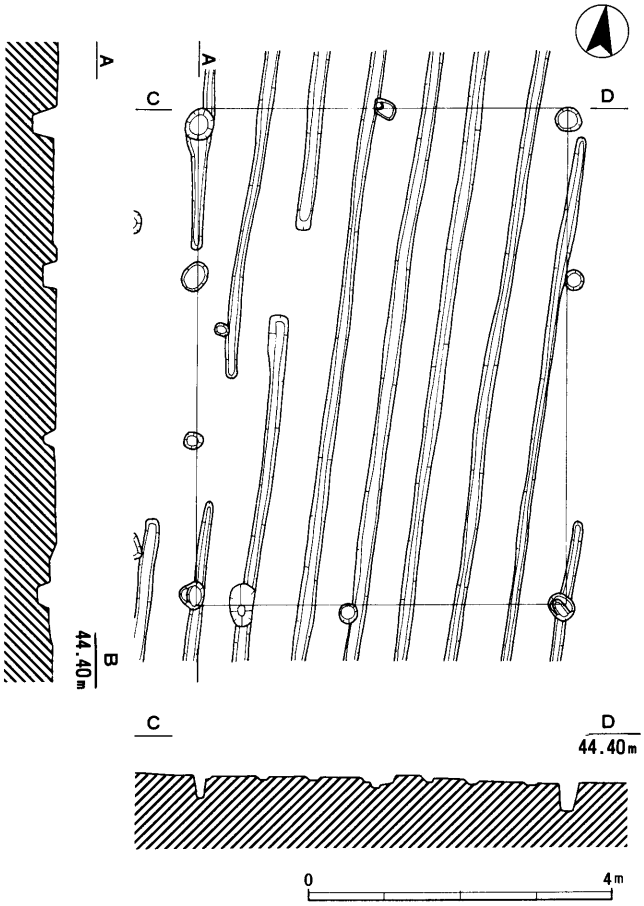
第３図　調査区平面図（Ｓ＝１：200）



第4図　ピット列平面図（S＝1：100）及びSD12土層断面図（S＝1：20）



第5図　調査区土層断面図（S＝1：80）



第６図　ＳＢ14平面図（Ｓ＝１：100）

ものについて述べる。

灰釉陶器（１～14・16）　１～５はピット列のピットから、６はＳＤ12、７～９はＳＺ９・10から出土した。10～14・16は包含層からの出土である。

１・４・６・８・13・14・16は椀もしくは皿、それ以外は壺の底部であろう。ほとんどの椀もしくは皿の高台は低く幅の広い三日月高台である。16の高台のみ高く外に開き、断面二等辺三角状を呈する。これらから灰釉陶器の時期は斎藤編年で、一部古相を呈するものもあるが概ね折戸53号窯式～東山72号窯式に比定できよう。①

土師器（15）　土師器高杯の脚部である。面取りがなされているが、表面の磨滅が激しく詳しい調整は不明である。

瓦（17）　均整唐草文の軒平瓦である。浅尾悟氏の分類によればⅣＡ型式に相当すると思われる。②この型式の瓦は伊勢国分寺跡で多く出土している。

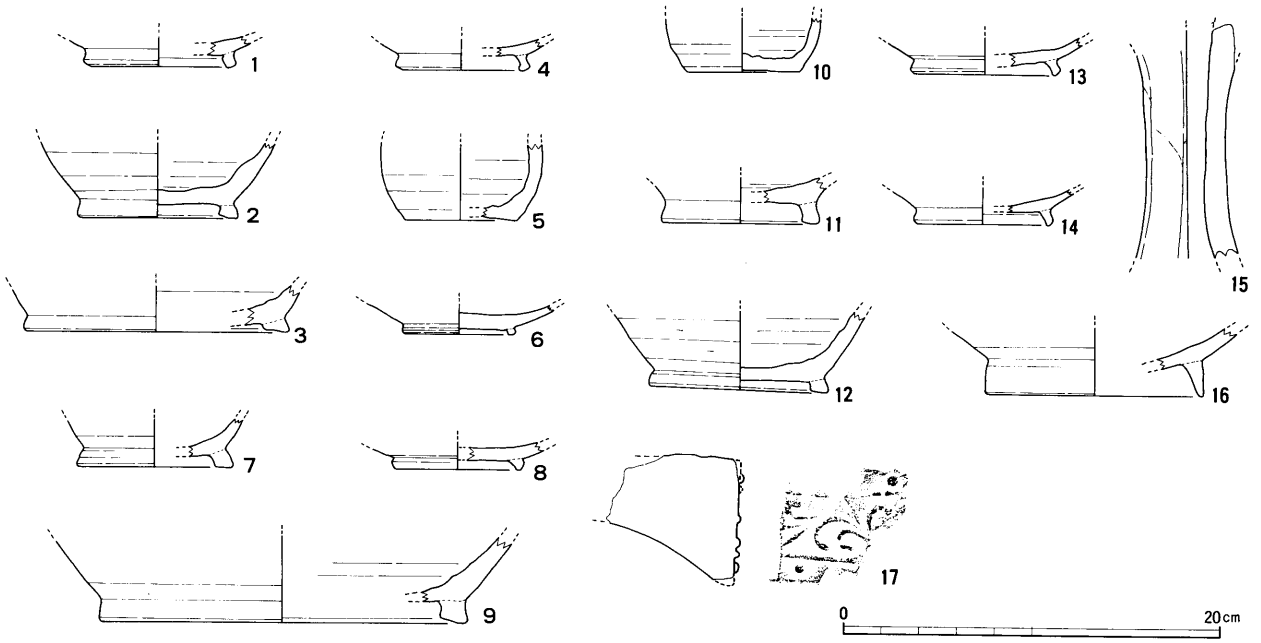
［註］

① 斎藤孝正「東海地方の施釉陶器生産－猿投窯を中心に－」『古代の土器研究－律令的土器様式の西東三』、古代の土器研究会、1994

② 浅尾悟「伊勢国分寺跡出土軒瓦について」『伊勢国分寺跡－第３次発掘調査概要報告－』、鈴鹿市教育委員会、1991

遺物番号	登録番号	地区遺構	器種	法量cm	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	001－03	Ｃ４ Ｐ４	灰釉陶器 椀	高台径:8.0 器高:(1.6)	内面：ロクロナデ 外面：貼付後ナデ	密 微砂粒含む	良好	灰白N8／	高台部1／7	
2	001－01	Ｃ４ Ｐ４	灰釉陶器 壺	高台径:8.5 器高(4.0)	内面：ロクロナデ 外面：ケズリ・ヨコナデ	密 ～1.5mmの砂粒含む	良好	灰白5Y7／1	高台部3／4	
3	001－02	Ｃ４ Ｐ４	灰釉陶器 壺	高台径:8.0 器高:(2.5)	内面：ロクロナデ 外面：ケズリ・ヨコナデ	密 微砂粒含む	良好	灰白N8／	高台部1／6	
4	001－04	Ｃ４ Ｐ４	灰釉陶器 椀	高台径:7.0 器高(1.6)	内面：ロクロナデ 外面：貼付後ナデ	密 微砂粒含む	良好	灰白N8／	高台部1／4	
5	001－06	Ｃ４ Ｐ３	灰釉陶器 壺	高台径:6.0 器高:(4.1)	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ・底部糸切痕	やや密 ～1.5mmの砂粒含む	良好	灰白5Y7／1	高台部1／2	
6	001－07	Ｃ３ ＳＤ12	灰釉陶器 椀	高台径:6.0 器高(1.6)	内面：ロクロナデ 外面：貼付後ナデ・底部糸切痕	密 微砂粒含む	良好	灰白7.5Y8／1	高台部 少量欠	
7	002－04	Ｃ６ ＳＺ10	灰釉陶器 壺	高台径:8.2 器高:(2.6)	内面：ロクロナデ 外面：貼付後ナデ	やや密 ～1.0mmの砂粒含む	良好	内面：灰黄2.5Y6／1 外面：灰N5／	高台部1／3	
8	002－05	Ｂ５ ＺＳ９	灰釉陶器 椀	高台径:6.9 器高(1.5)	内面：ロクロナデ 外面：貼付後ナデ・底部糸切痕	やや密 ～1.5mmの砂粒含む	良好	灰白N8／	高台部2／5	
9	002－07	Ｂ３ ＳＺ９	灰釉陶器 壺	高台径:19.2 器高:(4.6)	内面：ロクロナデ 外面：貼付後ナデ・ロクロケズリ	やや密 ～1.0mmの砂粒含む	良好	灰白5Y7／1	高台部1／4	
10	001－05	Ｃ３ 包含層	灰釉陶器 壺	高台径:6.0 器高(2.9)	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ・底部糸切痕	やや密 ～1.5mmの砂粒含む	良好	灰白N8／	高台部1／2	
11	002－03	Ｃ３ 包含層	灰釉陶器 壺	高台径:8.4 器高:(2.4)	内面：ロクロナデ 外面：貼付後ナデ・ロクロケズリ	やや密 ～1.5mmの砂粒含む	良好	灰白N7／	高台部1／3	
12	002－06	Ｂ５ 包含層	灰釉陶器 壺	高台径:9.5 器高(4.3)	内面：ロクロナデ 外面：貼付後ナデ・底部糸切痕・ロクロケズリ	やや密 ～1.0mmの砂粒含む	良好	内面：灰白N8／ 外面：灰白10Y7／1,灰N5／1	高台部 少量欠	
13	001－08	Ｃ３ 包含層	灰釉陶器 椀	高台径:8.0 器高:(2.0)	内面：ロクロナデ 外面：貼付後ナデ	密 微砂粒含む	良好	灰白N7／	高台部1／4	
14	002－02	Ｃ３ 包含層	灰釉陶器 椀	高台径:7.4 器高(1.9)	内面：ロクロナデ 外面：貼付後ナデ	やや密 ～1.0mmの砂粒含む	良好	灰白N8／	高台部1／3	
15	003－01	Ｃ３ 包含層	土師器 高杯		内面：ナデ 外面：面取り８面、表面磨滅のため調整不明	やや密 ～1.0mmの砂粒含む	並	にぶい橙5YR7／4		
16	002－01	Ｃ３ 包含層	灰釉陶器 椀	高台径:11.6 器高(3.5)	内面：ロクロナデ 外面：貼付後ナデ	密 微砂粒含む	良好	灰白N7／	高台部1／8	
17	003－05	Ｃ３ 包含層	軒平瓦			やや密 ～1.5mmの砂粒含む	良好	灰白5Y7／1		均整唐草文

第１表　出土遺物観察表



第７図　出土遺物実測図（Ｓ＝１：４）

Ⅴ　結　語

今回の調査区は、削平を受けており、検出できた遺構は少ない。ＳＢ14は、柱穴の特徴などからおそらく中世のものと考えている。そこで、ピット列について若干の考察を加えたい。

今回検出したピット列はやや蛇行しながらも概ね方位はN20°Ｗである。これは明かに現在の道路区画方向とは異なり、また出土した遺物からも古代に遡る可能性がある遺構である。特徴としては、楕円形を呈し、浅く、一定の間隔で並ぶ点があげられる。但し、深さについては調査区のほとんどが削平をうけており、本来の深さを示しているとは言えない。

さてこの遺構の性格であるが、何かを区画した柵もしくは塀、または道路状遺構の可能性を考えたい。

柵もしくは塀を想定した場合、添え木が必要な柵・塀にしてはピット間の間隔が0.6ｍと狭く、また形態が楕円形の必要がない。生け垣ならば、通常はすかいに柱根が残る。これらの点から木舞垣の可能性が高いといえる。“何を”区画したかについては、調査区の幅が狭く不明であるといわざるを得ない。

一方で道路状遺構を考えた場合、道路遺構に伴う波板状凹凸面に相当する可能性がある。波板状凹凸面とは「道路遺構に伴い」検出される「楕円形、円形ないしは不整形の浅い土坑群」のことである。この遺構については、近江氏をはじめ様々な研究が行われており、その性格についても①丸太を敷きつめた痕跡（枕木）、②道路建築時の基礎工事、③急な斜面での足掛け、④自然発生したものといったいろいろな性格が検討されている。[①] 波板状凹凸面であるとすると、その性格は①の枕木の痕跡にしてはピットが小さい、北側のピットの様相が異なる、ピット列１・２の間のＳＺ９・10から拳大程度の石が集中して出土した、以上の点から②の基礎工事的な性格を想定したい。但し、道路遺構の決めてとなるような溝・硬化面といった遺構は検出できなかった。

残念ながら、どちらも今回の事例の性格と断定できず、いずれも可能性があるという段階でとどめておきたい。蛇行しているという点からすると道路状遺構である可能性がやや高いであろうか。この遺構は調査区のさらに南へ続いていると思われ、今後の調査結果をふまえ、検討していきたい。

［註］
① 近江俊秀「道路遺構の構造－波板状凹凸面を中心として－」『古代文化』第47巻第４号、財團法人古代學協會、1995　ほか

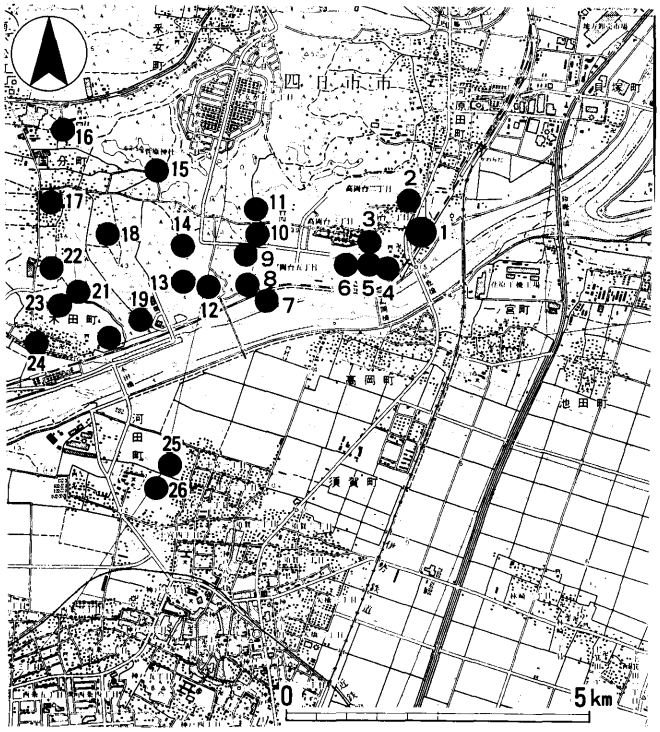
附　水巻遺跡工事立会結果報告

1　調査の契機と経過

水巻遺跡は三重県鈴鹿市高岡町字水巻に所在する周知の遺跡である。今回、(一) 四日市鈴鹿線緊急地方道路整備（B）事業に伴い遺跡範囲内に仮設橋を設置する事になった。そこで、まず遺構・遺物の有無を確認するため範囲確認調査を行った。結果、事業予定地の一部で遺物が出土したため、工事によって削平をうける範囲の工事立会を実施した。立会面積は20㎡、立会期間は平成12年３月15日である。遺跡周辺の環境については本報告書所収の「国分北遺跡」報文を参照されたい。

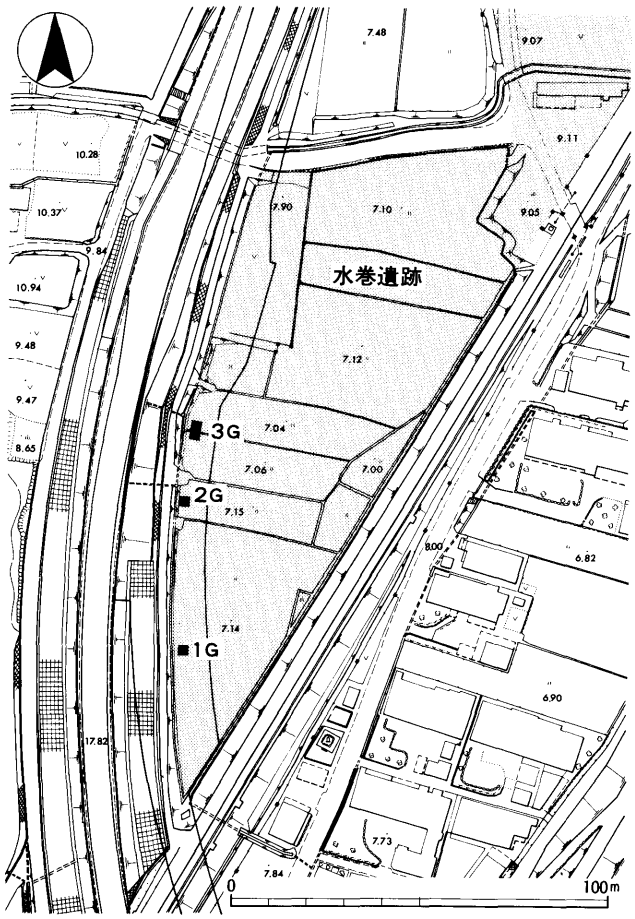
2　立会の結果

場所により工事に伴う掘削深度が異なるため、試掘坑として３ヶ所（１～３Ｇ）設定した。１・２Ｇ・では工事掘削深度の約2.5m下まで掘り下げた。基本的な層序は表土、灰色砂、灰褐色粘土、青灰色砂で、遺構・遺物ともに確認できなかった。３Ｇでは基本的な層序が表土、茶褐色シルトで、このシルト層より、土師器皿・羽釜が出土した。遺構は、東西方向の流路を検出し、ここから土師器皿・羽釜・山茶碗などが出土した。図示した遺物はすべてこの流路から出土したものである。１～４は土師器の皿である。１の口縁部にはススが付着しており、灯明皿として使用されたものであろう。５は青磁の花瓶の破片と思われる。６～９は土師器の羽釜である。６は南伊勢系、７～９は中北勢系の土師器の羽釜である。７～９は口縁部と鍔部の間に焼成前穿孔による円孔が施されている。破片が小さいため１個しか認められないが、本来２個１対（計４個）あるものと思われる。いずれも口縁部がやや内傾するタイプで、



1水巻遺跡　2山王谷遺跡　3宮谷遺跡　4古里遺跡
5高岡山中世墓　6高岡城跡　7久保田遺跡　8寺田山遺跡
9西ノ岡Ｂ遺跡　10西ノ岡Ａ遺跡　11扇広遺跡　12寺田山古墳群
13中尾山遺跡　14境谷遺跡　15富士山古墳群　16国分北遺跡
17国分尼寺跡　18国分東遺跡　19沖ノ坂古墳群　20盤城山遺跡
21大鹿山古墳群　22大鹿廃寺　23木田城跡　24里遺跡
25八重垣神社遺跡　26宮ノ前遺跡

第８図　水巻遺跡位置図（Ｓ＝１：50,000）

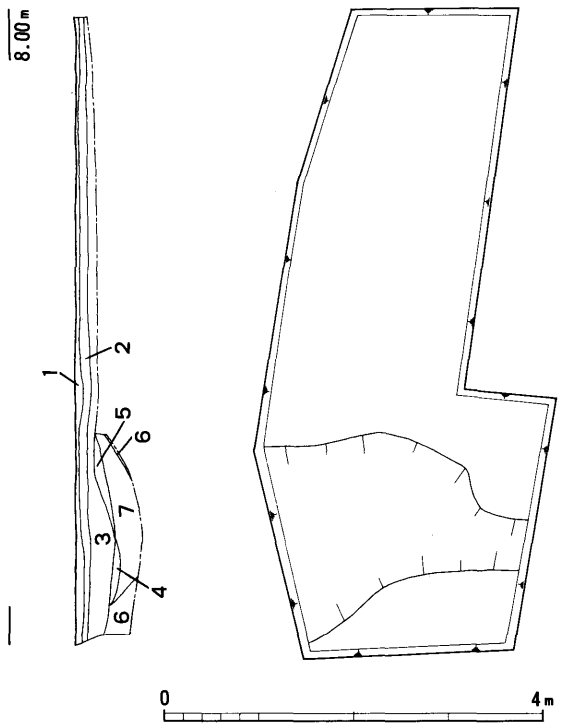


第９図　調査区位置図（Ｓ＝１：2,000）

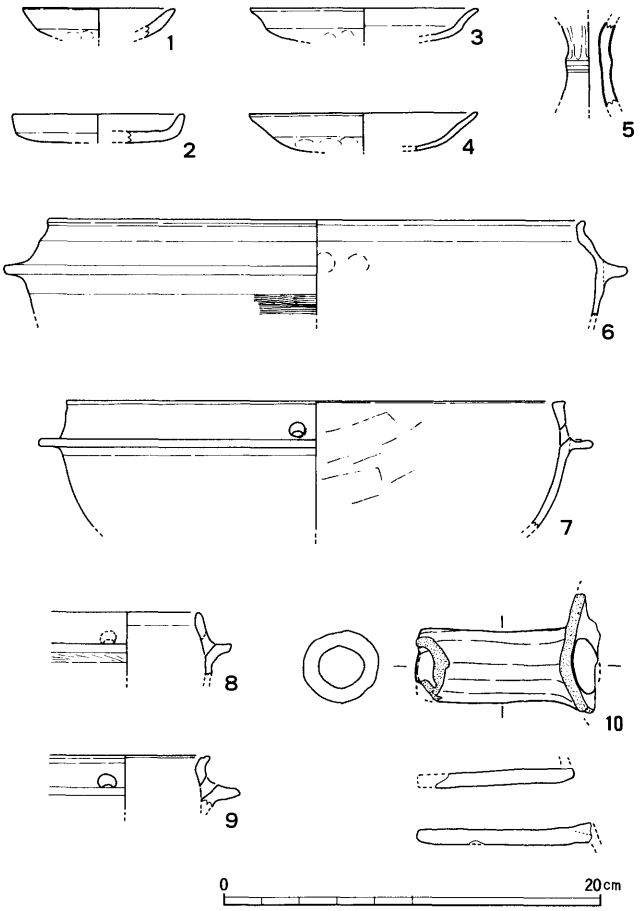
9は口縁端部に凹線状のくぼみを持つ。10は土師質の十能の把手と考えられる。

3　結語

事業予定地内の南半分については広範囲に渡って土の入れ替えが行われており、遺構があったとしてもすでに破壊されていると考えられる。また、検出した流路は出土した土器から15世紀～16世紀にかけてのものであり、周辺にこれらの時代の遺跡が眠っている可能性がある。



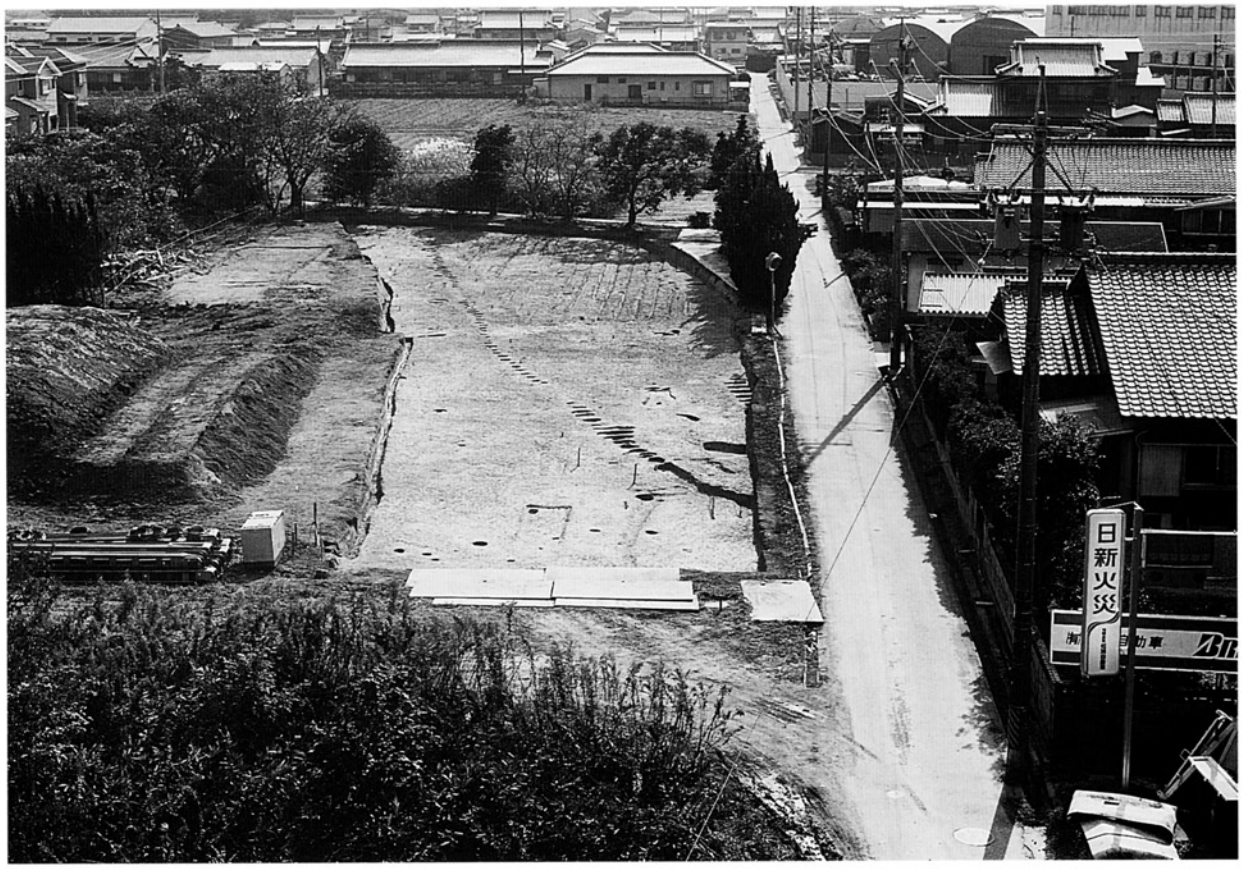
第10図　3G平面図及び西壁土層断面図（S＝1：80）



第11図　出土遺物実測図（S＝1：4）

遺物番号	登録番号	地区遺構	器種	法量cm	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	002－05	3G流路	土師器皿	口径:8.0	内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ、オサエ後ナデ	やや密 微砂粒含む	並	内・外面:にぶい橙（7.5YR7／3）	口縁部1／6	口縁部スス付着
2	002－03	3G流路	土師器皿	口径:9.0	内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ、オサエ後ナデ	やや密 ～1.0mmの砂粒含む	並	内・外面:灰白（10YR8／2）	口縁部1／4	
3	002－04	3G流路	土師器皿	口径:12.0	内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ、オサエ後ナデ	やや密	並	内面:灰白（10YR8／2） 外面:灰黄褐（10YR5／2）	口縁部1／8	
4	002－02	3G包含層	土師器皿	口径:12.0	内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヨコナデ、オサエ	やや密 微砂粒含む	並	内・外面:灰白（2.5Y8／2）	口縁部1／5	
5	002－06	3G流路	青磁			密	並	内面:オリーブ灰（10Y5／2） 外面:オリーブ黄（7.5Y6／3） 生地:灰白（5Y8／1）		
6	001－01	3G流路	土師器羽釜	口径:28.0 ツバ径:33.0	内面：オサエ、ナデ 外面：貼付ナデ、ヨコナデ、ハケメ	やや密 微砂粒含む	並	内面:浅黄橙（10YR8／3） 外面:浅黄橙（7.5YR8／4）	ツバ部1／6	体部スス付着
7	001－02	3G流路	土師器羽釜	口径:26.0 ツバ径:29.0	内面：工具ナデ 外面：ヨコナデ、貼付ナデ、ナデ	やや密 ～1.5mmの砂粒含む	並	内・外面:にぶい橙（7.5YR7／4）	口縁部1／8	体部スス付着
8	001－04	3G流路	土師器羽釜		ヨコナデ、貼付ナデ、ハケメ	やや密	並	内面:黄灰（2.5Y6／1） 外面:灰白（2.5Y7／1） 褐灰（10YR4／1）		体部スス付着
9	001－05	3G流路	土師器羽釜		ヨコナデ	やや密	並	内面:灰黄（2.5Y7／2） 外面:灰白（2.5Y7／1）		スス付着
10	002－01	3G流路	土師器十能		面取り風ナデ	粗 ～2.0mmの砂粒含む	並	内・外面:にぶい橙（7.5YR7／4）	把手部ほぼ完存	

第2表　水巻遺跡出土遺物観察表



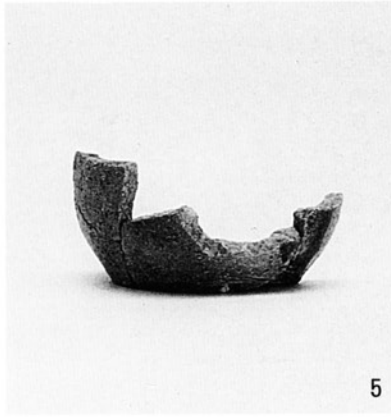
国分北遺跡（**国分尼寺跡を望む**）

調査区全景（**北から**）

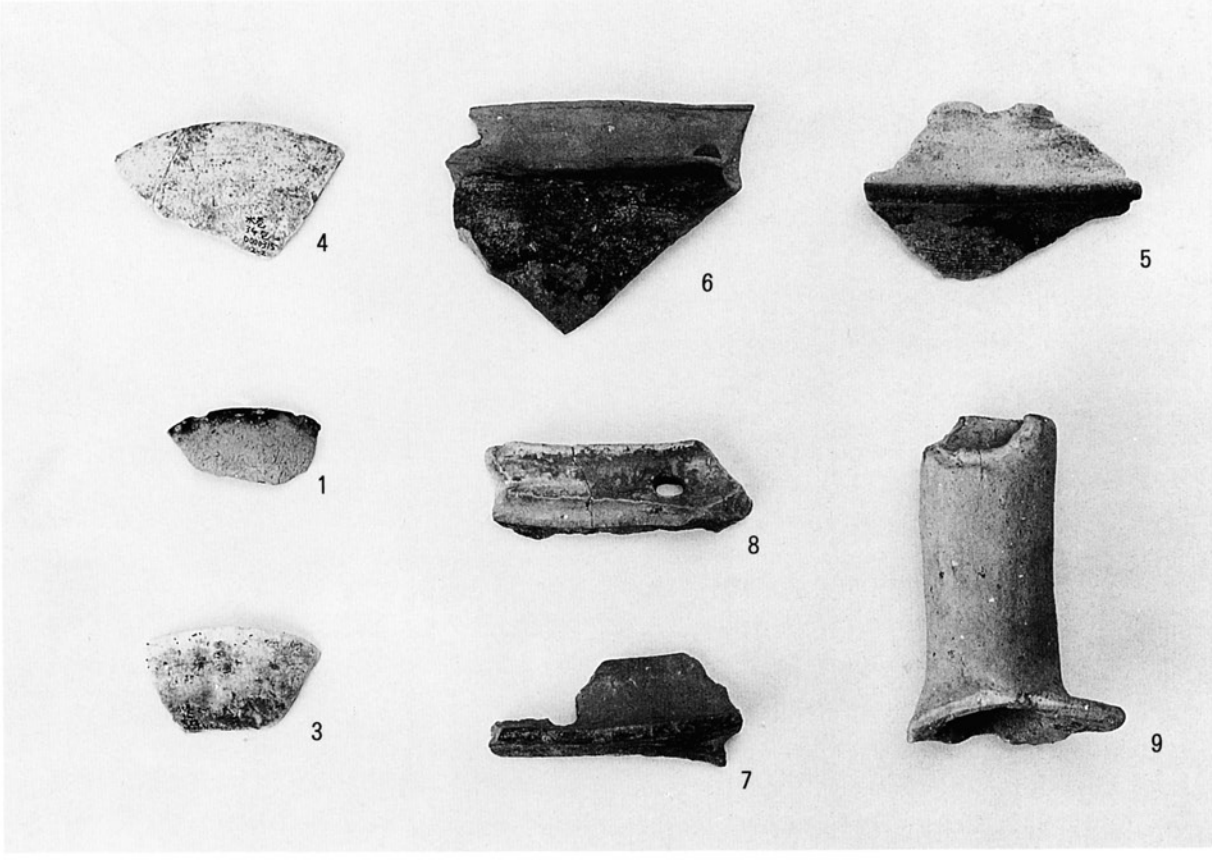
図版2

ＳＢ14（北から）

ピット列（北西から）



国分北遺跡出土遺物



水巻遺跡出土遺物

報告書抄録

ふりがな	こくぶきたいせきはっくつちょうさほうこく
書名	国分北遺跡発掘調査報告
副書名	
巻次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	２１５
編著者名	角正　淳子
編集機関	三重県埋蔵文化財センター
所在地	〒５１５－０３２５　三重県多気郡明和町竹川５０３　☎ 0596-52-1732
発行年月日	西暦　２０００年１２月２５日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
国分北遺跡 こくぶきたいせき	三重県鈴鹿市 みえけんすずかし 国分町 こくぶちょう	24207	536	34° 55′ 25″	136° 34′ 20″	19991012 ～ 20000120	1,000	（主）四日市鈴鹿環状線地方特定道路整備事業に伴う事前調査
水巻遺跡 みずまきいせき	三重県鈴鹿市 みえけんすずかし 高岡町字水巻 たかおかちょうあざみずまき	24207	850	34° 55′ 50″	136° 35′ 50″	20000315	20	（一）四日市鈴鹿線緊急地方道路整備（B）事業に伴う工事立会

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
国分北遺跡	集落	平安・中世	掘立柱建物・ピット列	瓦・灰釉陶器	
水巻遺跡	散布地	中世	流路	土師器皿・羽釜	

平成 12(2000) 年 12 月に刊行されたものをもとに
平成 19(2007) 年 10 月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告　215
（主）四日市鈴鹿環状線地方特定道路整備事業に伴う
国分北遺跡発掘調査報告
2000.12
編集・発行　三重県埋蔵文化財センター
印　　刷　共立印刷株式会社